

データ番号	411
効用の種類	物理・化学作用による環境改善効用
見出し	緑が都市の過剰乾燥を防止する
出典	(『特殊空間緑化技術マニュアル』1994 (財)都市緑化技術開発機構 特殊緑化技術開発研究会)
内容	<p>緑地による都市水分環境の調整効果として、*樹木の被覆地からは晴天時に4.4mm/日程度、**夏季の高木一本は200~400ℓ/日程度の蒸散が行われている。</p> <p>***また、芝生等で被覆されている路面は相対湿度が20%程度増加する。</p> <p>アスファルトやコンクリートの割合が多い都心部では高温化と同時に乾燥も起こっているため、植物があれば空気中への水蒸気の供給と同時に潜熱による冷却効果を発揮する。</p>
備考	<p>*『ヒトと森林』只木・吉良(1982)より</p> <p>**『Cooling Our Communities』EPI(1992)、『造園ハンドブック』(1978)技報堂より</p> <p>***『環境緑化における微気象の設計』新田伸三、他(1981)より</p>